奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和六年二月度　入賞句一覧

投句数　千五百六十七句

名和　よちゑ　選

特選

まめまいてなき虫よわ虫出ていった　大垣市　山田　桔平（小二）

節分はみんなが健康で幸せにすごせますようにという意味をこめて悪いものをおい出す日です。悪いもの（鬼）を追いはらい、良いもの（福）をよびこむために豆まきをします。鬼はどこにでもいて、だれの心にも入りこんできます。そんな弱い心に負けないように、パワーのある豆でなき虫・よわ虫をおい出しました。大きな声で「鬼は外、福は内」

さむい日はぎゅっとしてねお母さん　大垣市　まつ原　じゅあん（小二）

「寒さ」という冬の季語は、ただ単に寒いという意味だけではありません。心で感じる寒さにも使われます。寒い日に学校から帰って来た時に、「おかえり」の声といっしょに、お母さんにぎゅっとしてもらうと体も心もあたたまります。お母さんの体はふわふわで、いいにおいがして寒さも忘れてしまいます。

学校のつくえがこたつだったらね　大垣市　杉山　遼（小五）

日本の四季は、春夏秋冬がはっきりと分かれています。春はぽかぽかとあたたかく、秋は空気がすみきっていてとてもさわやかです。でも、暑い夏と寒い冬はがまんがなりません。学校は特に換気のため、窓が開けっ放しです。冬に学校のつくえがこたつだったらと、だれもが願うところですが、給食のあとは眠ってしまいそうです。

秀逸

春風でシャトルが屋根に行っちゃった　加茂郡川辺町　田口　凱也（中二）

石臼で氷の半球つくったよ　加茂郡川辺町　武田　菜々美（中二）

風がふき君という名の春が来た　加茂郡川辺町　横田　弥那人（中二）

冬だねと喜ぶ君の赤い頬　加茂郡川辺町　堀井　咲来（中三）

銀景色足跡残す野良の猫　加茂郡川辺町　馬場　貴大（中三）

じしんきて大変だったお正月　大垣市　今村　心奏（小四）

大雪で丸みを帯びた庭の岩　大垣市　渡部　美響（小五）

かえるがねたまごをうんだはるのいけ　大垣市　しみず　りゅう楽（小二）

クリスマスざわつくまちをあるいてる　大垣市　長尾　りま（小二）

恵方巻き具材が落ちる食べるたび　大垣市　岩崎　瑠奈（小六）

小中学生の部

入選

大空は見届けている雪解を　加茂郡川辺町　中島　栞奈（中二）

ごりごりと氷踏みつつペダルこぐ　加茂郡川辺町　白村　友莉（中二）

囀りがアラームとなり僕起こす　加茂郡川辺町　大久保　馨（中三）

さあ行くぞなわとびこえて空こえて　大垣市　廣畑　晴喜（小四）

おしくらまんじゅうおしておしていく　大垣市　小坂　ちさ（小四）

こたつ中父さんの足で入れない　大垣市　佐々木　悠（小二）

おいしそう大きな口で雪をまつ　大垣市　日比野　さくら（小二）

かまくらはみんなはいれるすごいだろ　大垣市　永野　瑛斗（小二）

夕ぐれにねばってとべたにじゅうとび　大垣市　佐藤　祐（小二）

しもやけのかゆみにたえてはるをまつ　大垣市　早崎　羽音（小二）

ドア開けるふほうしんにゅうさくらだよ　大垣市　大江　想生（小三）

ふきのとうやっとみえたね春の空　大垣市　田端　凌征（小三）

冬の夜九時でも明るい銀世界　大垣市　渡部　美響（小二）

冬の星しずかな夜にかがやいた　大垣市　鈴木　桃果（小五）

おおゆきがいっぱいふってみちふさぐ　大垣市　髙原　彩愛（小二）

こいあかでりんごをかいたおいしそう　大垣市　かわい　たかし（小二）

犬みたい弟雪にねころがる　大垣市　笹田　琉来（小六）

風なびく冬の空は青色だ　大垣市　谷口　璃緒（小六）

春菊で姉とおんなじ苦い顔　大垣市　伊藤　陽咲（小六）

卒業だ絶対親を泣かせるぞ　大垣市　栗川　颯太（小六）

選者吟

立春や境界線にもぐら穴　よちゑ